

プロである前に

先日、ある保健福祉事務所主催の地域で障害児と日頃係わる関係者の研修会に招かれ、講話の機会を得た。養護学校教師、通園施設職員、行政の担当者、病院の看護師等々、30数名が参加していた。

私の講話の内容はともかく、感心させられるのは、仕事の後のいわゆる時間外に駆けつけてこうした企画に参加し、障害児のことをより理解しようとする方々の熱意と姿勢である。いろんな所で、いろんな方が熱心に取り組んでくださることを知るにつけ、私まで励まされる。

それだけに、あまりにも自らの専門性への想いだけで障害児と係わるのではなく、いろんな立場の方々に協力をいただき、何よりも障害児自身、また家族の想いを大事にし、「日々の生活への支援」に視点をおくように講話したつもりである。プロである前に、一人の人間としての係わりを考えて欲しいという願いからである。

(2002年10月20日記)